



富山県SDGs宣言実施状況報告書



2023年4月1日

企業・団体名 株式会社タニハタ

代表者名 代表 谷端 信夫

富山県SDGs宣言において宣言した取組みの実施状況について、下記の通り報告します。

記

1 取組み期間 令和3年10月19日～令和5年3月31日

2 取組みの実施状況

No.	SDGsの達成に向けた目標と取組の実施状況
1	<p>【目標】 会社で使用するエネルギーは、全て再生可能エネルギーを使い、脱炭素経営を進める。</p> <p>【実施状況】 ・工場屋根に太陽光パネルを設置 20KWhを工場電力として自家消費(2015年、2021年 合計50KWH設置) ・水力発電によるCO₂排出量ゼロの電力「グリーン電力」を北陸電力と契約し電力供給を受ける。(2020年9月) ・組子製作中に発生する切削くずをペレットにする「ペレタイザー」を導入(2020年)。そのペレットをペレットストーブ(8台)の燃料として使用。工場内の石油ストーブを全て撤去(2021年 1～3月)。職人達と工夫しながら省エネルギーを図る。 ・タニハタが設定した中長期的な温室効果ガスの削減目標が、パリ協定が目指す「1.5℃目標」の達成に対して科学的根拠に基づいた目標であるとSBTイニシアチブから認められ、認定を取得。(2021年4月) ・2022年3月にカーボンオフセットを行う。(Scope1 および Scope2における排出量)</p>
2	<p>【目標】 社員が生きがいをもって働くことができる環境づくりを行う。</p> <p>【実施状況】 ・電力だけに頼るのではなく、手仕事も増やし、職人技術を向上させる。IT、技術力、デザイン力を高め、それを駆使し、製品寿命を伸ばすことで、お客様に百年大切に使用していただける製品をめざす。職人には定年を設けず、退職時期も本人の意志に任せ、いつまでも働きがい、生きがいのある職場へ。 ・「日本の職人」として胸を張って仕事ができるよう、作業服、備品の素材やデザイン、工場内装にもこだわる。古くから引き継がれた日本の素晴らしい伝統文化を、工場の中に少しでも取り入れていく。</p>
3	<p>【目標】 国産木材の利用を推進し、組子づくりを通してその重要性を国内外に発信する。国産木材のブランド化をめざす。</p> <p>【実施状況】 ・これまで組子の主材料として使用してきた木材を外国産から国産材(ヒノキと杉)に切り替え(2018年8月)。日本産木材を使用したタニハタオリジナル木材の開発・普及をめざす。 ・木材、環境問題に関する情報をWEBサイト、SNS、カタログを駆使して国内外に向けて発信する。工場内で学生向けにワークショップを行い、職人達の声でも伝える。</p>